

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成25年6月27日(2013.6.27)

【公開番号】特開2013-94463(P2013-94463A)

【公開日】平成25年5月20日(2013.5.20)

【年通号数】公開・登録公報2013-025

【出願番号】特願2011-240681(P2011-240681)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成25年4月26日(2013.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

各々を識別可能な複数種類の識別情報を可変表示して表示結果を導出表示し、予め定められた特定表示結果が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態に制御する遊技機であって、

前記遊技者にとって有利な第 1 の状態と前記遊技者にとって有利でない第 2 の状態とに変化する可変入賞装置と、

前記特定遊技状態に制御するか否かと前記特定遊技状態に制御する場合の前記特定遊技状態の種類とを前記表示結果の導出表示前に決定する事前決定手段と、

前記事前決定手段が前記特定遊技状態に制御すると決定したことに基づいて、前記表示結果の導出表示後に前記事前決定手段が決定した前記特定遊技状態の種類に応じた期間中に前記可変入賞装置を前記第 1 の状態に制御する状態制御手段と、

前記事前決定手段による前記特定遊技状態に制御するか否かの決定結果を少なくとも報知する所定の報知演出を、前記表示結果の導出表示後に行う報知演出実行手段と、

を備え、

前記状態制御手段は、前記事前決定手段によって第 1 の特定遊技状態に制御すると決定した場合には第 1 の期間において前記可変入賞装置を前記第 1 の状態に制御し、前記事前決定手段が第 2 の特定遊技状態に制御すると決定した場合には前記第 1 の期間と前記第 1 の期間経過後の前記第 1 の期間よりも長い第 2 の期間とを含む期間において前記可変入賞装置を前記第 1 の状態に制御可能であり、

前記報知演出実行手段は、所定の遊技状態において前記事前決定手段が前記第 1 の特定遊技状態に制御すると決定した場合には前記所定の報知演出の実行を制限する、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

(1) 上記目的を達成するため、本発明に係る遊技機は、

各々を識別可能な複数種類の識別情報を可変表示して表示結果を導出表示し（例えば、可変表示結果として特別図柄を導出表示するなど）、予め定められた特定表示結果（例えば、大当り図柄など）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な特定遊技状態（例えば、大当り遊技状態など）に制御する遊技機（例えば、パチンコ遊技機１など）であって、

前記遊技者にとって有利な第１の状態（例えば、遊技球が進入可能な開放状態）と前記遊技者にとって有利でない第２の状態（例えば、遊技球が進入不可な閉鎖状態）とに変化する可変入賞装置（例えば、大入賞口を構成する特別可変入賞球装置７など）と、

前記特定遊技状態に制御するか否かと前記特定遊技状態に制御する場合の前記特定遊技状態の種類（例えば、１５Ｒ大当り、突確など）とを前記表示結果の導出表示前に決定する事前決定手段（例えば、ステップＳ２３９、Ｓ２４２にて、特図表示結果や大当り種別を決定するＣＰＵ１０３など）と、

前記事前決定手段が前記特定遊技状態に制御すると決定したことに基づいて、前記表示結果の導出表示後に前記事前決定手段が決定した前記特定遊技状態の種類に応じた期間（１５Ｒ大当り用タイムスケジュールや短期開放用タイムスケジュールにおける大入賞口開放期間）中に前記可変入賞装置を前記第１の状態に制御する状態制御手段（例えば、ステップＳ１１５にて特別可変入賞球装置７を第１状態にする制御を行うＣＰＵ１０３など）と、

前記事前決定手段による前記特定遊技状態に制御するか否かの決定結果を少なくとも報知する所定の報知演出を、前記表示結果の導出表示後に行う報知演出実行手段（例えば、ステップＳ１７６の処理中にて報知演出ＡからＣのいずれかを大当り種別にかかわらず共通して実行する演出制御用ＣＰＵ１２０など）と、

を備え、

前記状態制御手段は、前記事前決定手段によって第１の特定遊技状態（例えば、短期開放大当り遊技状態など）に制御すると決定した場合には第１の期間（例えば、短期開放用タイムスケジュールにおける０．５秒の大入賞口開放期間など）において前記可変入賞装置を前記第１の状態に制御し、前記事前決定手段が第２の特定遊技状態（例えば、１５Ｒ大当り遊技状態など）に制御すると決定した場合には前記第１の期間と前記第１の期間経過後の前記第１の期間よりも長い第２の期間（例えば、長期開放用タイムスケジュールとなる１５Ｒ大当り用タイムスケジュールにおける２８秒又は２９秒の大入賞口開放期間など）とを含む期間において前記可変入賞装置を前記第１の状態に制御可能であり、

前記報知演出実行手段は、所定の遊技状態（例えば、時短状態など）において前記事前決定手段が前記第１の特定遊技状態に制御すると決定した場合には前記所定の報知演出の実行を制限する（例えば、ステップＳ３１８では、時短フラグがオンのときには、オフのときに選択される報知演出時間Ａ～Ｃが選択されていないので、報知演出時間Ａ～Ｃに対応する報知演出Ａ～ＣがステップＳ３５５では選択されず、報知演出時間Ａ～Ｃに応じた演出が制限されている。なお、制限するとは、実行割合を少なくすることであればよい。）、

ことを特徴とする。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

上記構成によれば、遊技状態によっては、可変表示の表示結果の導出表示後に行われる所定の報知演出の実行が制限されるので、報知演出の実行とその後の特定遊技状態の種類の比率とが固定的になってしまうことが防止され、報知演出後の特定遊技状態の種類の比率を遊技者が予測しづらく、遊技への興趣が向上する。